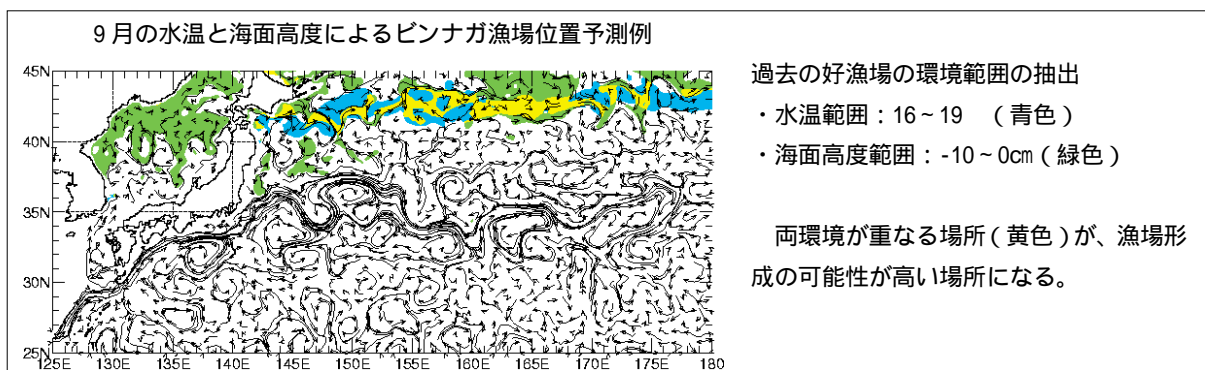


沖合域漁場探索システム開発研究

(県単 研究期間 平成22年～24年度)
担当：資源海洋科 増田 傑

【研究の背景とねらい】

- ・ 竿釣り漁業は漁船同士による漁海況情報や公庁船による先行調査により、漁場探索の効率化が図られてきたが、民間船の隻数の減少、富士丸廃船等により従来の方法による効率化が困難となってきた。
- ・ 更に、近年の燃油高やカツオ・ビンナガ漁の低調な漁況により、西部太平洋の広範囲な海域での新漁場の探索が困難となっており、漁業者から漁場探索の効率化につながる新たな情報の提供が要望されている。
- ・ 水産技術研究所では、竿釣り船の漁況情報を継続して収集してきており、過去の本邦東方のカツオ、ビンナガの好漁場と表面水温、海面高度、表面塩分との関係を整理している。
- ・ 本研究では、水温、海面高度等の衛星情報等から、過去に好漁場となったそれぞれの環境要因を水平的、鉛直的に把握し、好漁場の指標となる環境要因の抽出を行う。
- ・ 更に、漁場の移動特性、餌料生物や延縄の漁場位置などとの関係を明らかにし、これら複数の情報を組み合わせて、漁場位置予測を行う技術を開発し、有効性を確認する。



【期待される成果】

- ・ 船による調査航海の期間に限らず、周年情報の提供が可能になる。
- ・ 漁場予測図により漁場探索時間の短縮が図られ、操業の効率化が期待される。
- ・ 海洋環境と漁獲特性の関係が分かり、資源研究への応用が図られる。

【年次計画】

細目課題	22年度	23年度	24年度
海洋環境と漁場形成との関係の解明	海洋構造と漁場位置・移動の関係把握	海洋構造と漁場位置・移動の関係把握	
予測指標となる漁場環境特性、漁場移動特性の検討		予測指標の抽出	予測指標の抽出と最適化
漁場予測図の作成と検証		予測と有効性の検証	予測と手法の改善

(作成 平成22年4月)